

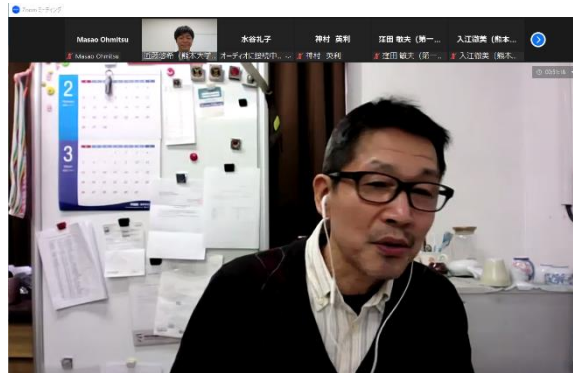
令和4年度 日本社会薬学会 九州支部 講演会 報告

令和5年2月18日(土)に、令和4年度日本社会薬学会九州支部講演会をオンライン(Zoom)により実施いたしました。司会・進行は入倉 充 教授(日本社会薬学会九州支部長)が務めました。演題:「薬局薬剤師視点で実施する社会薬学研究—腎機能障害時の医薬品適正使用に関する研究を中心に—」について、熊本大学大学院生命科学研究部臨床薬理学分野 近藤 悠希 先生にご講演いただき、36名にご参加いただきました。

腎機能を考慮した医薬品適正仕様に関する調査研究から、腎機能障害時には腎排泄型薬剤の有害事象リスクが高くなるため、その回避のために細やかな薬学的介入が必要である。CKD 患者の多くは外来で管理されている。腎機能低下患者への腎排泄型薬剤使用は主に保険薬局を介して行われている。これらによるリスクを回避するために腎排泄型薬剤の処方監査を支援するシステムを開発されました。このシステムを導入することで処方監査の時間を短縮することが可能となった。病院内へのシステム導入により投与量エラーが劇的に減少した。腎機能を考慮した適正使用と医療費適正化にもつながったなどの効果が示された。NDB データ(全国のレセプト)を利用することで急性腎障害(AKI) リスクを予測することができた。有害事象自発報告データベース(JADER/FAERS)を利用した研究では、バラシクロビルと NSAIDs 併用でバラシクロビル単独投与と比べ、腎障害リスクが増大する可能性が高まる。AKI 発症には気温など環境要因も影響するなど、薬剤師が明日からの業務に活用できる情報満載で、有意義な講演会でした。

最初にスマートヘルスケア協会の取り組み状況である未病対策・健康増進のために、薬局等を活用した健康応援プログラムの作成や研修会を実施している教育機関としての活動状況を先ずご紹介いただき、健康増進に関する施策、脳卒中・循環器病対策基本法に関してご説明いただき、心房細動による心原性脳梗塞症の予防について「健康寿命」延伸のために早急に取り組むべき課題等についてわかりやすくご講演いただきました。

また、今後の取り組みとして、健康寿命延伸を図るための施策に基づいた家庭用心電計を用いた健康啓発事業に関する啓発活動の現状から進捗状況まで事例を踏まえて具体的にご講演いただきました。活発な討議もあり、大変参考になる内容で有意義な講演会となりました。



【日本社会薬学会九州支部長 司会・進行: 入倉 充 教授】



【演者: 近藤 悠希 先生】

日本社会薬学会九州支部 支部長 入倉 充
日本社会薬学会九州支部 事務局長 吉武 毅人
日本社会薬学会九州支部 事務局 大光 正男